

伊万里・鍋島に映った四季—和の意匠—展

The Four Seasons in Imari and Nabeshima Ware

富士に桜に秋草も、「日本」を感じる 80 選



展覧会情報

- ◇ 名称：伊万里・鍋島に映った四季—和の意匠—展
- ◇ 会期：2026年4月3日（金）～6月21日（日）
- ◇ 開館時間：10:00～17:00（入館受付は 16:30まで）
※金曜・土曜は 10:00～20:00（入館受付は 19:30まで）
- ◇ 休館日：月曜・火曜・5月7日（木）
※5月4～6日（月・祝～水・振休）は開館。
- ◇ 入館料：一般 1,300円／25歳以下 500円／高校生以下無料
※一般以外は要証明書。
- ◇ 会場：戸栗美術館（東京都渋谷区松濤1-11-3）
- ◇ 交通：渋谷駅ハチ公口より徒歩15分・地下鉄A2出口より徒歩12分
京王井の頭線 神泉駅北口より徒歩10分
当館には駐車場はございません。近隣のコインパーキングをご利用ください。

展覧会構成と主な出展作品

※ 画像①～⑥および展覧会ポスターの画像データ等をご用意しております。ご入用の際は、お手数ですが別紙画像利用申請書をお送りください。

◆ 第1章 「伊万里焼に見る四季と自然」(第1展示室)

伊万里焼に見られる四季や自然の意匠を、17世紀後半の作例を中心にご紹介いたします。四季を巡りながら、伊万里焼の歴史的な展開や流行もご覧ください。

春爛漫

初出展

画像① 薄瑠璃釉染付 桜文 折紙形皿

伊万里
江戸時代（17世紀後半）
口径 17.3×13.5cm

花熨斗のように折紙で桜の折枝を包んだ、優美な意匠の変形小皿。青色の濃淡も繊細です。



秋澄む

画像③ 色繪 秋草文 角瓶

伊万里（柿右衛門様式）
江戸時代（17世紀後半）
高 23.2cm

胴部四面を使って、菊や萩、桔梗などの秋草と、雲間の月を描いています。余白の多い構図も風情があります。

夏の訪れ



染付 菖蒲文 輪花皿

伊万里
江戸時代（17世紀後半）
口径 36.5cm

アヤメ科の花を主題とし、ほかにも平仮名を記した巻物や桜川など、日本のモチーフが採用されています。

画像② 染付 富士文 皿

伊万里
江戸時代（17世紀中期）
口径 18.5cm

日本の名峰・富士山は1650年代頃から伊万里焼に盛んに描かれるようになりました。本作では、絵画の流れを汲んで、頂上を3つに分ける三峰形（さんぼうがた）で描かれています。



冬の兆し

染付 雪輪文 瓶

伊万里
江戸時代（17世紀後半）
高 22.5cm

大小の雪輪文を散らした瓶。雪輪内には薄（すすき）や桔梗を描き、秋から冬への移ろいを感じさせます。

◆ 第2章 「鍋島焼に見る四季と自然」(第2展示室)

鍋島焼にあらわされた意匠を、17世紀後半から18世紀にかけての作例を主体として、季節ごとにご紹介いたします。献上・贈答品として、高度に洗練された意匠をご覧ください。

惜しむ春



画像④ 色絵 柴垣桜花波濤文 皿

鍋島
江戸時代（17世紀末～18世紀初）
口径 19.7cm

波間に漂う桜花を青の濃淡と赤の線描で表現しています。円形の形状を生かした斬新な構図です。

夏を彩る



画像⑤ 色絵 水葵文 皿

鍋島
江戸時代（17世紀末～18世紀初）
口径 14.8cm

水葵と青海波が夏らしい皿。鍋島焼の植物文の描き方は、近い時期に刊行された絵手本と類似しています。

秋を綴る



色絵 草子文 皿

鍋島
江戸時代（17世紀末～18世紀初）
口径 20.4cm

草子を散らす構図は、着物の図案集にも見られます。2冊の表紙に秋草を描き、秋の気配を漂わせます。

春を待つ



画像⑥ 青磁 松形皿

鍋島
江戸時代（18世紀）
口径 17.5×10.1cm

松は中国では寒中に常緑を保つ高潔な植物。日本ではそのイメージを根底とし、めでたいものと好まれています。

伊万里焼と鍋島焼

伊万里焼とは、江戸時代初頭の佐賀で誕生した日本初の国産磁器です。佐賀・有田を中心とした地域で焼造され、国内外に流通しました。

鍋島焼は、伊万里焼の技術を基に創出され、佐賀鍋島藩から徳川將軍家への献上品、他の大名家・公家への贈答品などとして用いられました。17世紀後半に佐賀・伊万里の大川内山に藩窯が築かれて製作が本格化し、17世紀末期から盛期を迎えました。

展覧会紹介文

- ◇ 日本の四季や自然が映し出された館蔵品約 80 点を展示。(25 字)
- ◇ 江戸時代の伊万里焼は意匠面で中国からの影響を受けましたが、日本独自の意匠も見られます。伊万里焼から展開した鍋島焼にも和様の意匠は採用されました。日本の四季や自然が反映された館蔵品約 80 点を展示します。(100 字)
- ◇ 江戸時代の伊万里焼と鍋島焼の意匠は、中国の陶磁器や画譜などからの影響を大いに受けていますが、日本で愛好され、発展した意匠も少なくありません。とくに、中国との貿易が停滞する 17 世紀後半には日本ならではの意匠の開拓が進みました。絵画や文学、ほかの陶磁器や染織品などといった工芸品、着物の図案集である小袖雛形本、18 世紀以降に増加する和刻の画譜や絵手本類などとの接点が見られ、イメージ・ソースは多岐に及んだとみられます。日本の四季や自然が美しく映し出された館蔵の伊万里焼と鍋島焼、約 80 点をご紹介いたします。(249 字)

会期中の催し物

- ◇ 展示解説
 - 4月 18 日（土）・5月 30 日（土） 各日 14:00～（約 45 分）
 - 参加費無料（要入館券） □ 予約不要
- ◇ ラウンジ & ギャラリー・トーク
 - 「伊万里焼・鍋島焼に見る和様の意匠」（講師：当館学芸員）
 - 4月 27 日（月） 14:00～（約 120 分／要予約・有料）

※ 当日はご予約の方のみご入館いただけます。
※ 詳細は当館ホームページをご覧ください。

同時開催

- ◇ 『江戸時代の伊万里焼—誕生からの変遷—』（第 3 展示室）
- ◇ 『令和の鍋島焼 阪井茂治・くらら作品展』（やきもの展示室）

次回展予告

酒がおいしい古伊万里展 2026年7月3日(金)～9月21日(月・祝)



染付 龍文 水注

伊万里
江戸時代（17世紀前期）
高 14.7cm

お問い合わせ

公益財団法人 戸栗美術館 広報担当 宛

〒150-0046 東京都渋谷区松濤 1-11-3

TEL : 03-3465-0070 FAX : 03-3467-9813 E-mail : kouhou@toguri-museum.or.jp

公式サイト : <https://www.toguri-museum.or.jp/>